



### ■ 国内ユニクロ事業：既存店売上高増収だが、第3四半期は減益

連結売上高の61.1%、また営業利益の71.2%を占める国内ユニクロ事業の第3四半期9ヶ月間の売上高は5,416億円、前年同期比7.6%増と増収を達成いたしました。営業利益は883億円、同4.7%減と減益の結果でした。コア商品のキャンペーンを強化し、秋冬シーズンではウルトラライトダウン、ヒートテック、暖パンなど、春夏シーズンでは、エアリズム、レギンスパンツ、ステテコ&リラコなどを打ち出し、前年に比べて客数を大幅に増やすことができた結果、第3四半期9ヶ月間における既存店売上高は前年比5.2%増、第3四半期3ヶ月間では同9.3%増でした。第3四半期9ヶ月間の営業利益が減益となったのは、売上高総利益率が前年同期比1.4ポイント低下したこと、売上高販管費比率が同0.7ポイント上昇したことによります。販促活動を強化した結果、値引き商品に売上が集中したことにより、粗利益率は低下いたしました。

通期の国内ユニクロ事業の業績予想については、第3四半期で直近予想に比べて売上高で約30億円、営業利益で約30億円下回ったものの、6月の既存店売上高が前年比20.5%増と好調だったため、直近予想から変更していません。通期の売上高は6,730億円、前期比8.5%増、営業利益は1,060億円、同3.6%増を見込んでいます。なお、5月末の直営店舗数は833店舗（フランチャイズ店19店舗除く）と前年同期末比5店舗増、2013年8月末の直営店舗数は834店舗の見込みです。

### ■ 海外ユニクロ事業：アジア好調で大幅な増収増益が続く

海外ユニクロ事業の第3四半期9ヶ月間の売上高は1,913億円、前年同期比56.1%増、営業利益は196億円、同43.8%増と大幅な増収増益となりました。第3四半期3ヶ月間でも大幅な増収増益を達成しております。第3四半期では、出店が加速している中国、香港、台湾、その他のアジアで計画を上回り、大幅な増収増益でした。ただし、韓国では、気温低下による売上苦戦により、第3四半期3ヶ月間では若干の減益となっております。

米国では、下期に赤字幅が縮小する計画でしたが、第3四半期3ヶ月間の収益はほぼ前年並みに留まる結果でした。これは、天候不順により春物商品の動きが鈍く、ニューヨーク3店舗の収益改善が計画を下回ったことによります。秋にオープンしたウエストフィールド・ガーデン・ステート・プラザ店、サンフランシスコのユニオン・スクエア店と、今年春に出店した新店2店舗の売上は順調に推移しております。なお、米国では2013年秋に、東海岸に6店舗、西海岸に4店舗、合計10店舗を出店する計画です。

5月末の海外ユニクロ事業の店舗数は410店舗（前年同期比135店舗増）に達し、8月末には446店舗（同154店舗）の見込みです。446店舗の内訳としては、中国・香港243店舗、韓国105店舗、台湾37店舗、その他アジアで39店舗、米国7店舗、欧州15店舗です。なお、6月22日にはインドネシア1号店をジャカルタに出店し、好調な滑り出しとなっております。海外ユニクロ事業の通期の業績は、売上高2,340億円、前期比52.8%増、営業利益200億円、同81.8%増を予想しております。

### ■ グローバルブランド事業：ジュー事業の好調続く

グローバルブランド事業の第3四半期9ヶ月間における売上高は1,508億円、前年同期比30.1%増、営業利益は134億円、同0.2%増と増収増益を達成いたしました。ただし、第3四半期3ヶ月間の営業利益は前年比で減益となっております。これは、ジュー事業の好調が続いたものの、欧州での天気が極めて悪かった影響から、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業の業績が計画を下回り、減益になったことなどによります。グローバルブランド事業の通期の業績予想は、売上高1,940億円、前期比26.8%増、営業利益185億円、同27.2%増を予想しております。

### ■ 2013年8月期の連結業績予想：売上高は初の1兆円を越える見込み

通期の連結売上高は、初の1兆円を超え、1兆1,030億円、前期比18.8%増、営業利益は1,475億円、同16.6%増、経常利益は1,535億円、同22.6%増、当期純利益は915億円、同27.7%増、1株当たり利益は898.09円を見込んでおります。なお、通期の1株当たり年間配当金は280円（中間配当金140円を含む）を予想しております。

IR情報 <http://www.fastretailing.com/jp/ir/> に決算データや各種リリースなどを開示しております。